

# 湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所属 薬学部医療薬学科

名前 若山 恵

作成日 2023 年9月28日

## 1. 教育の責任

主たる担当科目である「病理学」(薬学部、必修、4年生)は最高学年がまだ3年生であるため開講していない。いままでに以下の科目について、担当し指導を行っている。

担当科目:

「病理学」(薬学部、必修、4年生): 来年度4月より担当予定。

「病理学」(保健医療学部看護学科、必修、1年次): 本年度10月より担当予定。

「医療薬学チュートリアル演習」(薬学部、実習・演習、2年生): 担当教員の1人として少人数制グループを指導している。

「薬学総合プレ研究」(薬学部、実習・演習、3年生): 生理・解剖・病理分野の担当者の1人として指導を行っている。

「薬学部特別活動」(病理学・症候論など、選択、1・2年次): 補講として昨年は計5回担当。「チーム医療論」(演習、必修、6年生): 薬学部の最高学年は3年生であるため対象学生がいないが、保健医療学部4年生の監督・指導を1回担当した。

そのほかの教育活動:

チューターとして他教員1名とともに1年生12名の出席・成績・学生生活一般の管理・指導を担当している。および1年生チューター長として、重要な報告事項の確認を行うこととともに年に数回、チューター会議を主催している。

【根拠資料1:2022 薬学部教員活動報告】

## 2. 私の理念・目的

### 1) 私の理念

薬学部の中では数少ない医師教員として、その特質を生かした教育を行うことが私の理念である。

私の専門は病理学であり、疾患の本質や、医療人として必要な用語の理解について教える基礎系学問である。それぞれの疾患の本質に結び付いた症状や診断法、治療法などの知識を無理なく紐づけることで、膨大な知識を記憶せざるを得ない医療薬学の分野において、真のスキルを身につけられる教育を目指したい。基本的な学修姿勢として「考えながら学ぶ」ことを教えたい。

同時に身近な疾患と見逃したくない所見を中心とした疾患へのアプローチの仕方を学ばせることから、医療スタッフの一員としての自らの立ち位置を自覚させ、周囲の人に有益な情報を提供しようとする姿勢など、プロフェッショナリズムの育成に努めたい。医療スタッフでないと「どのような症状があったときに何科を受診すればいいのか」迷うことが多いため、工作上必要となる基本的な専門科についても知識確認する機会を与えたい。併せて、人として大切なこと、なども教えることができれば嬉しい。

知識としては、薬剤師国家試験対策のみでなく、幅広い知識を教えることは当然であるが、身近な薬剤師として地域住民に貢献しうるような人材を育成したい。

## 2) 理念をもつに至った背景

学生は医療従事者としての仕事や立ち位置について理解しているとは言えず、医学用語に馴染みがなく、就労までに習得すべき知識は多岐にわたっている。つながりを考えずに記憶したことは忘れやすく膨大な知識は相互に関連付けて記憶すること、また病気の本質を理解することから導き出すせる知識を増やすことで、ようやく対応可能となる。単なる暗記ではなく、本質を問う学問を教えたい。また考え続けることを習慣づけることで生まれる、日々の疑問点を解決しつつ前進することこそが学問に相対する適切な姿勢であると考えます。

またプロフェッショナルリズムは一朝一夕で身につくものではない。個人や物事に誠実に対応していく姿勢こそ大切であり、いまだ大人未満である学生に伝えたいが、伝えることが難しいことでもあるとは了解している。

## 3. 教育の方法・戦略

講義においては、ところどころに社会で問題になっていること、興味深い写真などを関連付けて挿入し、興味を持続させる工夫をしている。学生に質問を投げかけ、それにその場で答えさせる。演習・実習においても同様に発言を促し、引っ込み思案な学生にも物おじせず発現する癖をつけさせるように工夫している。一方で批判的な意見が多い学生には相手の優れた点をほめるスキルを教える。

### 1) 講義に興味を向けさせる:

90分にわたって学生の興味を引き付けることは難しい。講義に緩急をつけ、30分ごとに枝葉にあたるスライドを入れ、区切りをつける。また身近な健康問題を取り上げ、診断法や治療法についても関連付けて解説する。

### 2) 学生個々のパーソナリティを把握し、より良い学修方法の提言を行う。

【根拠資料2:薬学部特別活動 2022:知っていて損のない病院と健診の使い方、症候論】

## 4. 学習成果

### 1) 講義に興味を向けさせる:

補講として行った「薬学部特別活動」(病理学・症候論など)のうち、病理学に関しては私自身の既往歴と関連した事項を扱ったため、身近な事象として捉えてくれたとは思いますが、自分自身うまく消化できておらず、学生にアンケート等で確認することがためられたため、今後この事象を扱うかどうかは再考する予定である。また症候論については学生に馴染みがなく、理解度が低い、とのことで指定されて行ったが、授業担当者ではなかったため実際の評点について知る機会がなく、そのまま未確認になってしまった。

- 2) 学生個々のパーソナリティーを把握し、より良い学修方法の提言を行う。  
評価を行うことが難しく、またすぐに結果が望めるものではない。さらなる工夫を加え、継続課題とする予定である。

## 5. 改善のための努力

### 1) 講義に興味を向けさせる:

様々な症例を提示し、対応して現在の知識でも理解可能な治療法の例を数種挙げ、それぞれ学生個人に選択させ、その是非について考えさせる。短時間で解答可能なドリルを作成し、空き時間を利用した学修を促す。また補講であってもプレテストとポストテストをペアで行い、その場で習熟度を確認し、モチベーション上昇につなげる。

### 2) 学生個々のパーソナリティーを把握し、より良い学修方法の提言を行う。

学生へのアンケートを行い 1)の評価を他の教員と意見交換をしつつ行う。また相手の意見を入れやすい環境づくりのため学生と交流できる機会を増やす。

## 6. 今後の目標

### 1) 短期目標

- ・「病理学」の一行問題をドリルで解けるようにプールする。使用を促したのち、ある程度の結果が得られる達成時期:2024年9月。
- ・上記に対するアンケートとその集計(難易度、有用性、興味など)。達成時期:2024年12月。

### 2) 長期目標

- ・「病理学」「症候論」の一行問題をドリル感覚で解けるようにプールする。
- ・難易度別の症例問題をプールし、学生が RPG 感覚で解けるように工夫する。実際の症例ではなく、パターンとしての例題を用いる。

## 【添付資料】

根拠資料1:2022 薬学部教員活動報告

根拠資料2:薬学部特別活動 2022:知っていて損のない病院と健診の使い方、症候論